

第 16 回人文学・社会科学特別委員会における主な意見

（総合知創出について）

- 総合知や文理融合といった際に、その重要性は認識しつつも、データサイエンスに偏っているのではないかという懸念がある。
- 人文学・社会科学と自然科学の融合による学術知共創の第一歩は、STEAM 教育から始まると思うので、教育も意識した議論も行うべきではないか。
- 総合知創出に関連して、人文学・社会科学系の研究者が真に中核となって分野を超えて共創していく枠組みを構築していく中で、研究企画支援がさらに重要になってくるのではないか。
- 人文学・社会科学の研究者が情報学や自然科学の研究者と総合知の研究を進めることは、同時に人文学・社会科学の研究も推進するものであるという意識を持つことが重要ではないか。加えてデータが大量に出てくる時代であるので、人文学・社会科学の研究者がより信頼度の高いデータを提供できるような環境を作っていくことをしっかりと考えることも重要ではないか。

（人文学・社会科学のデータ管理・利活用について）

- データの共有に関しては、ChatGPT のような生成系 AI も登場してきているので、知識の共有・利活用を今後どのように行っていくのかという問題があるのではないか。
- 人文学・社会科学系はデータの種別が多様であるため、データの整備・管理や多くの研究者にデータを活用してもらうためのプロモーションが重要ではないか。
- 今後総合知の有力なツールとして AI が広まっていく中で、人文学・社会科学系の研究者が、単なるユーザーではなく、人間社会との調和といったような観点から、AI 自体を改善していくような関わり方をしていくことが重要ではないかと思う。
- デジタルヒューマニティーズの推進において、資料をデジタル化しただけでは活用の幅が狭く、デジタル化した資料を様々な分野と融合させて使うためにはメタデータの整備や画像データのテキスト化、資料へのタグ付け等が必要であり、その部分の整備がまずは必要であると思われる。
- 人文学・社会科学系の研究分野で扱う資料は文献のみではなく、非常に多様である。それらを色々な機関で個別にデジタル化されてもその情報がお互いに可視化されていない。全体像が見えるようなネットワークが構築されることが重要なのではないか。
- 政府統計のデータについて、データ利活用に非常に手間と時間がかかるので、もう少し効率的にデータを利用できるようになるとよいのではないか。
- 人文学・社会科学系のデータを整備することは、人文学・社会科学系そのものの振興という観点から本質的に重要であると思うので、ぜひ強く進めていただきたい。特に、人文学・社会科学系のデータは分野ごとに規格もバラバラで、分野内での調整もうまくついでいないという課題もあるので、データをいかに利用しやすい形で整備していくかがかなり重要ではないかと思う。
- 社会科学では、政府統計のデータはかなり貴重であり、共同研究を実施する場合でも核

になるのは政府統計のデータになるので、その在り方についても検討していく必要があるのではないか。

(人文学・社会科学の在り方について)

- 社会科学の方向性について、国際的なジャーナル論文における競争、真理を追究したいという学者としての思い、社会に対する応用やレバンスという問題の3つの方向性の中でどこにスタンスを取るかということで研究者が苦労しているので、その点を問題意識として感じている。
- 研究資源とともに研究成果まで含めて人文学の研究の在り方を可視化することは他分野との協業という観点からもかなり重要であり、モニタリング指標も含めた様々な検討が重要ではないかと思う。
- 法学の分野では、国内ではあまり国際的なジャーナルに投稿する人がおらず、その関係でなかなかデータが集まってこないという点がある。また、法学そのものは他分野で得られた知見を活用できる学問分野だと考えており、法学界の中が変わっていくとよいと思う。
- 能楽について学際的な研究を行う際に、それぞれの分野の研究作法があまりにも違っていること、また研究成果が理系的な評価で評価される傾向があり、そうしたことが障壁となっていると感じている。

(人文学・社会科学データインフラストラクチャー強化事業について)

- JDCat については、これから多くの人にデータを使ってもらおうという観点から、ユーザー数をより多く増やすための取組を行ってもらい、人文学・社会科学を専門としない人や海外の研究者等からも活用してもらえるようになるとういのではないかと。
- データを整備しても最初からすぐに広く活用されることはなく、そのデータがどのように研究で使えるかを普及していく必要があり、そのためには活用のモデルケースを積極的に公表していくことが重要ではないか。
- データ基盤整備と研究コミュニティの構築が並行することは大事なことであり、データを活用して研究を行う中で、新たな研究コミュニティが構築されたといったような事例を上手く共有していくことができればよいと思う。
- データを整備すること自体が目的ではなく、データを使ってもらっていかにも展開させていくかが重要であるため、データを整備しただけで終わりにするのではなく、積極的な広報によるデータ基盤の普及啓発を予算に組み込みながら推進するべきではないか。
- 今後色々な機関にあるデータが益々JDCat に紐付いていくとよいと思う。その際、各機関が自分たちで整備したデータを JDCat に掲載したくなるようなインセンティブを上手く設計できればよいのではないかと。